

「とさっ子タウン」実施のプログラム作成

～こどもたちが遊びを通して 世の中の仕組みを知る～

1090508 和田由佳梨

高知工科大学工学部社会システム工学科

本研究は高知のこどもたちに自主性や自発性を養ってもらうことで、将来的に高知の発展へとつなげることをねらいとしたイベント、「とさっ子タウン」の企画プログラムを提案するものである。「とさっ子タウン」は、こどもたちで運営される仮設都市であり、遊びを通して社会のしくみを知ってもらうことを目的とする。先進事例としては「ミニミュンヘン」（ドイツ ミュンヘン市）や、「ミニさくら」、「ミニいちかわ」、「こども四日市」等がある。「とさっ子タウン」実行委員会（委員長 和田由佳梨）は社会人・大学生で構成され、月に1～3回程度会議を行い「とさっ子タウン」の実施に向けて活動している。なお、「とさっ子タウン」は2010年3月末開催予定である。

Key Words: 「とさっ子タウン」、「ミニミュンヘン」

1. はじめに

私はボランティア活動を通して、高知の将来的な活性化について常々思案していた。今日の高知においては多くの活性化を目的とした施策がとられているが、私にも何か出来ることはないかと考えていた際に高知版「ミニミュンヘン」の実施案が持ち上がる。この企画案は現代のこどもたちにおけるコミュニケーションの不足や、自分たちの生まれ育った故郷に対する誇りや意識の低下といった課題に対して「きっかけ」を与える事で現意識の改善や、課題克服の手段となればと考えられた企画である。

この企画案は「とさっ子タウン」という名称となり、私は実行委員長として本企画に参画することとなった。「とさっ子タウン」は2010年3月を実施予定としているが、私は今年度末で実行委員長を退任する為、私の最後の仕事として「とさっ子タウン」の企画をまとめることが求められている。本研究は「とさっ子タウン」の企画の作成を目的とする。

2. 企画の方法

「とさっ子タウン」実行委員会は2008年1月に結成し、その後ほぼ月1回程のペースで全体会議を行っており、その討議を基に現在の企画としてまとめられている。また海外や国内の先進事例の学習会等も交えながら詳細な詰めを行っていく。

3. 先進事例「ミニミュンヘン」

ドイツはミュンヘン市で行われている「こどものまち」事業。「ミニミュンヘン」は仮設都市でのこ

どもたちによる社会体験のイベントである。

長い歴史を持ち、多くのこどもたちに親しまれている。本企画もこの「ミニミュンヘン」の要素を取り込み、よりこどもたち主体の企画となることを目指している。

3.1 「ミニミュンヘン」の歴史

「ミニミュンヘン」は1979年に最初の試みが行われてから30年、2年に一度と隔年となった1986年からみても20年以上の歴史を持っている。

以下は「ミニミュンヘン」が現在に最初の試みから現在の隔年で開催されるまでに至った主な動向を年表にしたものである。

表2 - 「ミニミュンヘン」が隔年開催になるまでの主な動向

1979年	・「国際青年年」に2回目の「ミニミュンヘン」が開催された。 ・その後「ミニミュンヘン」の市議員や熱心な市民がミュンヘン市議会に申し、「ミニミュンヘン」の恒常的な開催と予算を獲得した。
1985年	・「国際青年年」に2回目の「ミニミュンヘン」が開催された ・その後「ミニミュンヘン」の市議員や熱心な市民がミュンヘン市議会に申し、「ミニミュンヘン」の恒常的な開催と予算を獲得した。
1986年	・この年以降「ミニミュンヘン」は2年に1度開催されている。

3.2 「ミニミュンヘン」概要

「ミニミュンヘン」とはドイツ南部の都市ミュン

ヘンにて7歳から15歳までのこどもが運営する「小さな都市」である。1979年に最初の試みが行われ、1986年より隔年で2年に1度（偶数年）、夏休みの一定期間に約3～5週間こどもたちの祭典として「ミニミュンヘン」が行われる。

「ミニミュンヘン」は例えるならばこどもたちによるこどもたちのためのまちづくり体験の場である。

ミュンヘンオリンピックパーク内に位置する約3,000㎡のホール会場を体験の場とし、そこには「ミニミュンヘン市」が広がっている。ここでは「ミミュ」と呼ばれるお金しか使えず、ドイツの通貨ユーロとも交換出来ないため働いてお金を得るしかない。

市役所や銀行・郵便局・新聞社・職業安定所・食べ物屋・工房・大学などさまざまな施設・機関があり、これらはすべて子どもたちによって運営されている。

4. 国内における試み

上記で取り上げた「ミニミュンヘン」を元に日本国内でも多くの試み「こどもがつくるまち」が行われている。対象年齢や会場形態等の設定事項は各事業により様々である。以下の表はいくつかある国内事例の中でも注目されている事業である。

表3 - 国内事例「ミニいちかわ」

名 称	ミニいちかわ
主催団体	・特定非営利活動法人 市川子ども文化ステーション ・NPO法人市川おやこ劇場千葉県市川市
開催場所	行徳駅前公園・大洲防災公園
開催期間	2日間
参加対象	0～18歳
通貨単位	ニョッキ（毎年変わる）
助成金	ミニいちかわ2008 子どもゆめ基金助成金事業 市川市1%支援制度事業

表4 - 国内事例「ミニさくら」

名 称	ミニさくら
主催団体	主催団体：NPO子どものまち（任意団体）
開催場所	千葉県佐倉市 中志津中央商店街（2008）
開催期間	7日間
参加対象	幼児～18歳
通貨単位	通貨単位：モール（600モール/時給）

表5 - 国内事例「こども四日市」

名 称	こども四日市
主催団体	こども四日市2004プロジェクト

	（行政+子どもの遊びの専門集団+商店街有志）
開催場所	三重県四日市市 すわ公園及びすわ公園交流館
開催期間	2日間
参加対象	主に小学生
通貨単位	ヨー

5 「とさっ子タウン」の企画

5.1 目的

数日間「仮想のまち」を開設する。このまちで遊びながら、多様な暮らしのシーンを体験しつつ、「とさっ子タウン」を発展させるプロセスを通じて「ねらい」にあるものを目指す。

5.2 ねらい

将来、社会の中核を担うこどもたちに、「仮想のまち」で多様な暮らしを体験してもらう中から、社会の仕組みを知り、一人一人がどのような権利を持つのか、どのような責任を果たすのかを感じたり気づいてもらう「きっかけ」づくりを目指す。またこうしたプロセスを通して、こどもたちが協力しあいながら、「仮想のまち」の中での新たな社会のしくみを創り出すことを期待したい。

こどもたちに社会の仕組みを知ってもらう事。
こども同士のコミュニケーションが生まれる場にする事。
こどもとおとなが一緒になって、向き合う場にする事。

5.3 コンセプト～大切にしたいこと～

「とさっ子タウン」実行委員会では企画を検討していく中で大切にしたいこと、忘れないようにすることを決め、その事項に沿ってプログラムを作成していく。以下が大切にしたい事項である。

- ・単なるイベントに終わらせるのではなく、次の動きにつなげるようにする。
- ・社会のしくみを考えるキッカケにする。
- ・子どもとおとながいっしょになって向かい合う場にする。
- ・子ども同士のコミュニケーションが生まれる場にする。
- ・関するすべての人の「身の丈」をほんの少しでも伸ばす事業であること。
- ・高知らしさを
「とさっ子タウン」だから、土佐風味になっていること
こどもたちに高知ならではの仕事や文化や遊びを体験してもらう
他都市にはない、日本で我々しかやっていない取り組みを最低一つは盛り込みたい

- ・「とさっ子タウン」を通じて
「とさっ子タウン」に関する方々が持つ経験や知恵が、一つの形になっていく過程を見てみたい。
各ユニットが大事だと思うことを最大限尊重したい。
参加することもただだけでなくまちやスタッフも成長する。

5.4 企画概要

1) 参加対象の年齢

10歳～15歳（中学3年生）を対象。
300名程度。保護者は基本的に会場に入れないよう制限する。

ただし、9歳の子どもと保護者は、まちの「お客様」としての参加を認める。
次年度には10歳になり、参加対象となるので、どんなことをしているのか知っておいてもらい、次年度の参加へとつなげたい。

2) 実施予定日

2010年3月末（春休み）の開催をめざす
最低3日間～最長7日間連続して開催
それまでに「プレ」を開催
2009年4月初旬（春休み中）の1日
「とさっ子タウン」のしくみやプログラムの検証
2009年8月頃（夏休み中）の1日
「夢のメニュー」の開発

3) 予定場所

「りょうまスタジアム」（高知市自転車競技場・陸上競技場）

4) 主催

「とさっ子タウン」実行委員会
特定非営利活動法人 NPO 高知市民会議
高知市市民活動サポートセンター

5.5 プログラムプロローグ

- ～まちが始まるまでのストーリー～
- 1) このまちができるまで
- 2) しばてんから聞いた話

5.6 プログラム内での基本事項

プログラム内で各項目において基本事項を決定し、その流れからそれない様に企画を進めていく。

1) 全体に通じること

こどもの自主的な運営や行動を重視する
今回は最初なのでシステムはできるだけ単純化する。こどもが面白さを感じることを重視。

2) 労働時間

30分単位
1日3時間以上（1日目の講習の時間は労働時間に含む。ただし講習の報酬はなし。支度金のみ。）

3) ハローワークでの募集システム

各店の経営者がハローワークに求人票を出す

4) 所得税の支払い方

雇われている人
経営者の人は自己申告

5) まちの人数バランスの目処

総数約300人を目処としている。
労働120人：消費・娯楽180人から

5.7 まちを構成するもの（スタート時点）

以下がまちを構成する施設、店舗である。

表6 - まちを構成するもの

公共的施設	市役所、警察署、職業案内所等
公益的施設	病院、テレビ局、新聞社等
工房	工房（木工、陶芸、クラフト等の製作）
食品製造	ケーキ、団子、レストランメニュー
食べ物ショップ （その場で製造して販売）	たこ焼き、焼きそば、ラーメン、ジュース等
食べ物ショップ （部から調達して販売）	綿菓子、ポップコーン、駄菓子等
食べ物ショップ （食品製造から運んできて販売）	ケーキ、団子、レストランメニュー等
楽しむショップ（提供型）	ネイルアート、ボーリング、お化け屋敷等
楽しむショップ（参加型）	カジノ、ダーツ、くじ引き、宝くじ等

5.8 物の流れとお金の流れ

1) 物の流れ

店舗販売による食品関係やクラフト関係は、材料を外部から調達する。各々の店舗で作成された商品は別の店舗により購入、加工されたり、客（参加者）により消費される。

2) お金の流れ

お金（都市内の通貨）は無尽蔵とし、必要に応じて増量される。また税金制度を設けており、徴収された税金は市役所にプールされ、市長や市議会により使用方向が決定される。

5.9 プログラムの基本的な流れ

プログラムは1日目、スタート時点で受付で市民権を得ることから始まる。受付機関での簡単な学習と職業訓練所の短時間での実務により市民として認められ、市税務課により、少額の支度金を貰う。そこからかはこどもたちの自由で、ハローワークでの

職探しや、都市内での遊びや買い物など好きに選ぶことができる。

2日目以降最長5日目までは1日目で受付を済ませている子どもたちは、市民権を得る作業はなく、

前日後半と同じように仕事や遊び等自由に選択する事が出来る。

以下が1日目から5日目までのプログラムの基本的な流れを簡易的に表した図である。

	システム	行うこと	必要なもの	検討事項
事前	参加者の募集、参加者の決定 参加者に市民証の発行	受付講習の時間の関係で案内時間をずらす	募集要項、案内ビラ、申込書 市民証	
1日目		受付とチェック <ダブルチェック> ・市民証のチェック ・「腕バンド」 (毎日の出入のチェック) 講習を受ける ----- 50人ずつ2箇所(1回30分、実質20分) 支度金をもらう 市民税を支払う 求人票の中から仕事を選ぶ 30分単位で働く(30分、1時間、等) 働き終わったら給料明細書をもらう(事業主発行) 明細書に基づいて給料をもらう 銀行に貯金する 所得税を支払う (1日可能な範囲でこれを繰り返す)	このまちのこれまで ----- ルール(働き方、遊び方、もめごとの解決の仕方) 求人票 給料明細書 通帳	「腕バンド」でいいかどうか 「紙芝居」で表現 税率 税率 税率

図1 基本的なプログラムの流れ

6 まとめ 今後の展開と課題

現時点で残された課題は本案をたたき台としての企画案の詳細化をはかる必要があることである。

「とさっ子タウン」は2010年3月開催予定である為、まだ時間が残されている。その間に本企画案をより良いものとしていく必要がある。

また「とさっ子タウン」本番でより良い成果を挙げる為に「プレイベント・とさっ子タウン」を開催する必要がある。プレイベントを行うことで子どもたちの意向や、動きなどを知ることが出来る。その結果から企画案の課題点や問題点等を洗い出すことで、より子どもたちにとって「きっかけ」を与えることの出来る企画を作成することが必要である。

参考文献

- 1) 「とさっ子タウン」実行委員会 平成20年12月8日「とさっ子タウン」シナリオたたき台(平成20年12月現在のもの)
- 2) NPO「文化と遊び空間」ミュンヘン 平成20年11月26日 遊びの都市「ミニミュンヘン」
- 3) ミニミュンヘン研究会 平成20年8月15日取得 ミニミュンヘン研究会ホームページ <http://www.mi-mue.com/>
- 4) こどもがつくるまち研究会 平成20年11月26日取得 こどもがつくるまち研究会ホームページ <http://asobi.squares.net>